

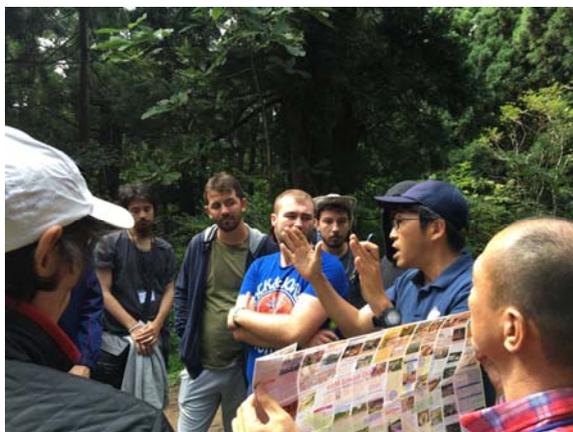
海外の大学からの学生を対象とした実習

新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター

新潟大学演習林では、今年度の4月から教育関係共同利用拠点の2期目が始まった。内容に関しては1期の継続であるが、内容の充実・拡大を図っている。国内の大学の他に、新潟大学への留学生や海外の大学の学生の受け入れを行っている。夏には新潟大学と協定を結んでいるトルコ・ロシアの大学と山形大学のさくらサイエンスプラン（SSP）実習でモンゴル・ベトナム等から、秋には演習林がホストになり、中国雲南省のシーサンパンナ熱帯植物園から SSP 実習を受け入れた。

海外からの実習生の対応は、基本的には英語で行っている。実習の説明や資料、また宿泊施設内の表示には英語表記をつけ加えた。食事に関しては、食文化が異なるために、あらかじめ食べられない物のリストを提出してもらって、それらの食材を利用しないように工夫している。また、食物に関するアレルギー対策も行なっている。ただ国際交流を行うためには、ビザの取得サポートや煩雑な書類の作成などが必要であり、専門に対応できるようなスタッフも必要であるかもしれない。

海外からの実習が増えることは、新潟大学の学生にとっても良い刺激になり、実習を通じて国際感覚を身につけ、英会話の訓練にもなっていると考えられる。これらの実習を行うことで、将来、海外留学を目指す学生も出てくるかもしれないし、共同研究を始めるきっかけになるかもしれない。今後は、できれば新潟大学の学生と海外の学生との共同実習も計画していきたい。



演習林で植生観察をする、トルコ・ロシアの学生ら



懇親会では、可能な限り佐渡の名産を出しています
(シーサンパンナ熱帯植物園, SSP 実習)



SSP 実習の修了証を手にする、
シーサンパンナ熱帯植物園の学生ら